

自治体名	北九州市（福岡県）	人 口	1 0 0 万人
面 積	486.81 km ²	担当部署(組織名)	環境局環境政策部計画課
問合せ先	TEL 093-582-2187 FAX 093-582-2196 メールアドレス kan-keikaku@mail2.city.kitakyusyu.jp		

1.事業名	北九州市民環境パスポート事業		
2.分野	<input type="checkbox"/> 教育・啓発		
3.事業の対象者	<input type="checkbox"/> 市民（家庭） <input type="checkbox"/> 企業（産業）等 <input type="checkbox"/> 行政自身 <input type="checkbox"/> 学校		
4.実施主体及びパートナー	主体 北九州市	パートナー <input type="checkbox"/> NPO	
5.事業の目的	<p>「北九州市民環境パスポート事業（以下、環境パスポート）の目的は、市民・企業・NPO・行政が一体となり、全市的なムーブメントとして環境活動に参加することで、市民一人ひとりが環境活動に取り組み実践する力「環境市民力」を高めていくことである。</p>		
6.事業の概要	<p>「環境パスポート」は、幅広い市民が環境活動に主体的に参加できるきっかけを提供するためのポイントプログラムで、「環境に配慮した活動」をした人が活動内容に応じたポイントを取得し、そのポイントの特典と交換出来る「頑張れば頑張っただけ得をする」仕組みである。</p> <p>2004年度の実証実験は、参加総数は1,127人で、地域通貨が入手できるプログラムとしては、資源回収（空き缶・ペットボトル回収、廃食用油回収、古紙回収、廃品回収）、イベント参加（水の浄化実験等）、ワークショップ参加（ペットボトルワークショップ等）、体験（公園づくり（里山整備）等）、グリーンコンシューマー（マイバッグ持参、ノーレジ袋）、企業環境活動（周辺清掃、分別ごみ、省エネ、古紙の有効利用、アイドリングストップ運動、カーシェアリング、ノーマイカーデー等）、地域清掃活動、地域広場整備、その他（環境ミュージアム見学等）のテーマで延べ112事業を実施した。</p> <p>環境パスポートは、ICカードによる電子媒体でのポイント流通を行うことで、参加者の取引履歴を参加者個人の環境行動の履歴として分析・集計し、個人やグループ、そして参加者全体の環境行動について、「通知表」という形で、随時取引履歴をまとめてWebで公開し、二酸化炭素の排出量の削減効果をビジュアルな形で、参加者にフィードバックした。</p> <p>通知表は、環境行動を行動パターンで分類して、その貢献度をバランスが分かるように図で示し、参加者の努力を示す「ものさし=指標」として活用した。</p> <p>特に、LCA（Life Cycle Assessment）手法により、環境に配慮しなかった行動と環境に配慮した行動を比較し、物質循環、エネルギー使用量の変化を、</p>		

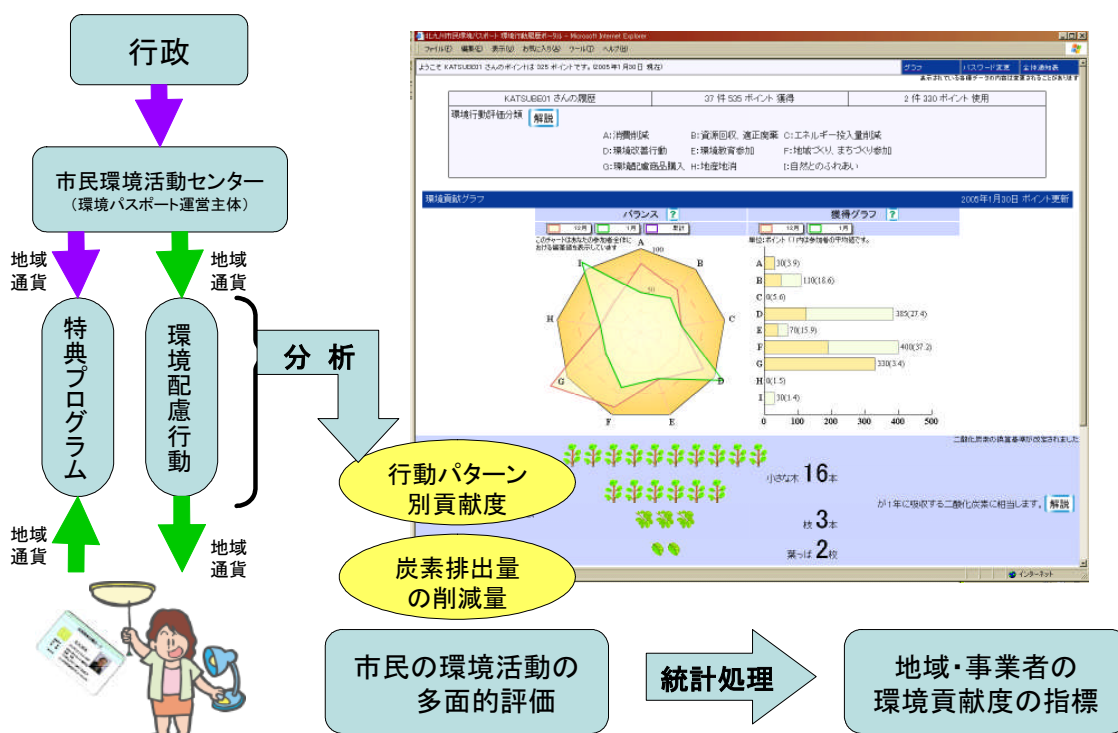
	<p>ライフサイクルにわたる環境負荷削減量で試算した。</p> <p>評価は、早稲田大学永田研究室で開発している統合化指標(Environmental Load Point)で行った。</p> <p>具体的には、環境行動の成果を、それと同等の二酸化炭素の削減効果を持つ植物の二酸化炭素吸収量として、分かりやすく葉っぱ（吸収量 9g）、枝（吸収量 90g）、小さい木（吸収量 1.8kg）、大きな木（吸収量 36kg）、森（吸収量 180kg）の数に換算して図で表示した。</p> <p>参加者全体の通知表は、二酸化炭素の削減量は 2901kg で 1611 m²の森林が 1 年間に吸収する二酸化炭素に相当する量であった。</p>									
7.進捗管理体制	(部署名)北九州市環境局環境政策部計画課									
8.事業の成果 (実績)	<p>2.9 t / 0.25 (3ヶ月) 年 (CO₂換算) (算出根拠) :</p> <hr/> <p>エネルギー削減量 / 年 (種類)</p> <hr/> <p>削減効果以外の成果 / 年</p>									
9.温室効果ガス削減以外の利益やメリット	<p>① 頑張った人が得をする仕組みにより、市民の環境意識の向上に役立った。</p> <p>② 参加者の取組みの成果が「通知表」という客観的な評価指標でフィードバックすることで個人の環境意識の向上につながった。</p> <p>③ 世代間交流や市民、商店、企業をつなぐ機会が増えるなど、地域コミュニティ活性化のきっかけとなった。</p>									
10.事業実施期間	<p>(実証実験) 2004年 12月から 2005年 2月まで</p> <p>(本格実施) 2006年 10月から</p>									
11.事業費	(実証実験) 9,659 万円									
12.事業費の財源内訳	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">補助〔国, 県, その他 ()〕</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">7,009</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">2,650</td> <td style="text-align: right;">万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td style="text-align: right;">万円</td> </tr> </table>	補助〔国, 県, その他 ()〕	7,009	万円	一般財源	2,650	万円	その他		万円
補助〔国, 県, その他 ()〕	7,009	万円								
一般財源	2,650	万円								
その他		万円								
13.この事業に要した人員数	15 人									
14.事業活動の中で特に工夫した点や苦労したこと。また他の自治体で応用する場合の留意点	<p>「環境パスポート」の特長として、環境行動を行うことで、環境に配慮した商品やサービスが得られるようにデザインした。</p> <p>例えば、資源回収で地域通貨をもらって、リサイクルのエコグッズを買うことで、地域通貨の循環の一方で、資源の循環が実現するようにした。</p> <p>ポイント使用に関しては、単なる商品やサービスと交換するのではなく、環境負荷ができるだけ小さい製品・サービスと交換することにより、グリーンコンシューマーの育成や環境ビジネスの振興など、環境の視点から多面的な広がりを持たせる工夫をした。</p>									

15. その他特筆すべき事項	<p>「環境パスポート」は、様々な環境活動を一堂に集めるプラットフォーム機能を持っており、市民に環境活動の場を創出し、「市民環境力（市民一人ひとりが環境活動に取り組み実践する力）」を高めるためのシステムだといえる。</p> <p>このプラットフォームは、市民ばかりでなく、NPO、地域商店、企業そして行政が参画する、まさに共創の場が演出され、互いのパートナーシップを活性化し、環境問題を地域レベルで解決に導く、ネットワークをつくる役割を果たす。</p>
16. 関係資料	<p>名称：内閣府経済社会総合研究所が運営するホームページ（わがまち元気）で当該事業の紹介あり</p> <p>入手方法：http://www.wagamachigenki.jp/saisei/02_07.htm</p>

(参考)

温室効果ガス削減目標 (CO ₂ 換算)	自治体	削減目標	%	地域全体	削減目標	%
		目標年度	年		目標年度	年
		基準年	年		基準年	年

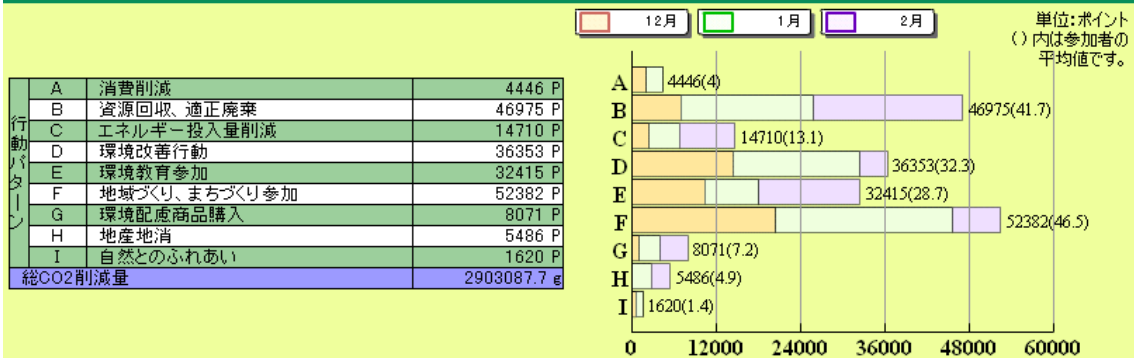
評価システムフロー



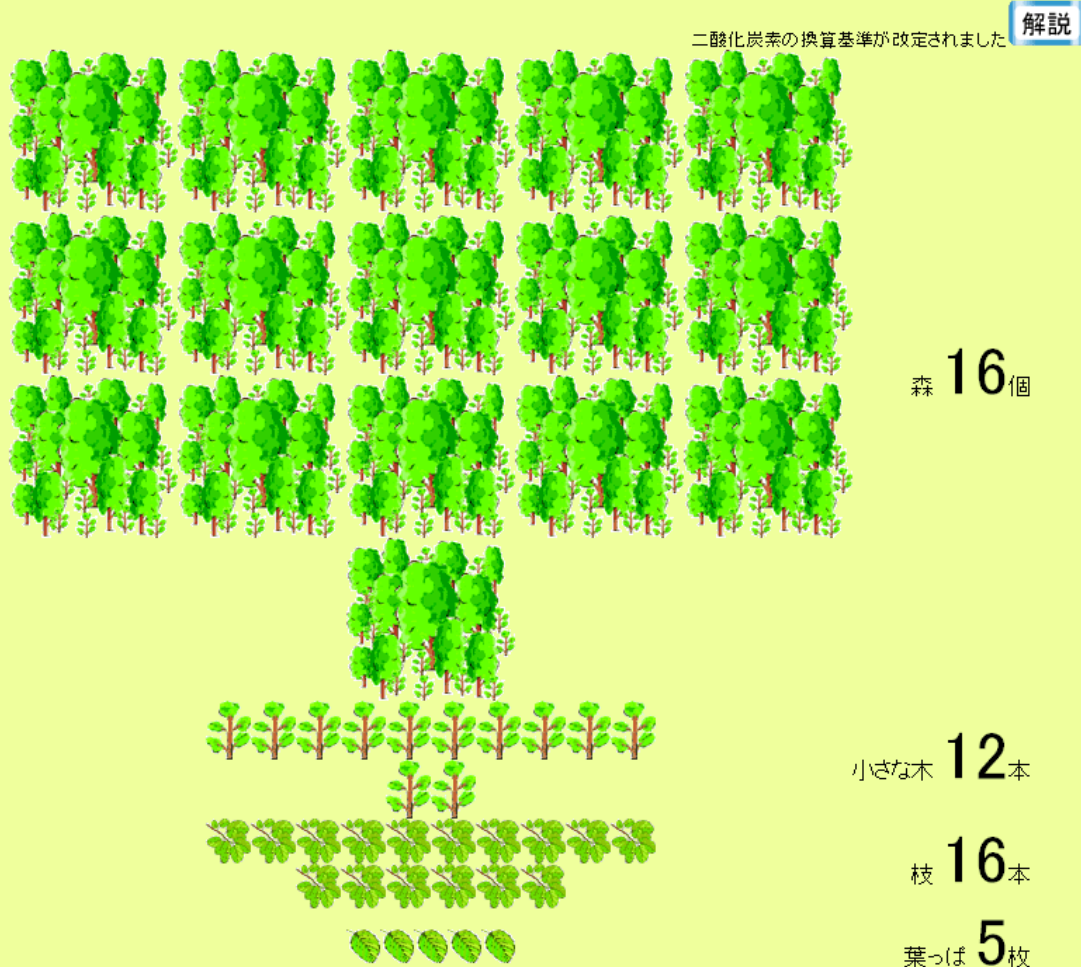
参加者全体通知表

現在の環境パスポート参加人数は **1127**人です。 現在環境パスポートポイント移動は **142436**ポイントです。

<参加の皆さんの実績>



CO2の削減量は **2903** キログラム **1612m²(0.1613ha)**の森林が1年間に吸収する二酸化炭素に相当します。



【公園づくり】



【ペットボトルワークショップ】

